

令和3年度周南市こども育成支援対策審議会(第6期第4回)会議録

日 時	令和4年3月25日(金) 13時30分～15時05分
場 所	周南市本庁舎5階 委員会室3
議 事	<p>議題</p> <p>特定教育・保育施設の利用定員の変更について 報告</p> <p>各課の取組みについて</p>
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員 11名 ※会議成立(欠席:木原委員) 井上会長、竹下委員、木村委員、田中委員、秋重委員、兼重委員 森本委員、原委員、大野委員、加村委員、小林委員 ● 事務局 11名 こども・福祉部こども局 穴田局長 次世代政策課:十楽課長、徳田課長補佐、久行 こども支援課:有福課長補佐、吉松係長、松村係長 あんしん子育て室:柿並室長補佐、橋所長補佐 学校教育課:魚谷課長 生涯学習課:川上課長

議題. 特定教育・保育施設の利用定員の変更について	
資料1: 特定教育・保育施設の利用定員の変更について	
(1) 特定教育・保育施設の利用定員の変更について	
□事務局	「特定教育・保育施設の利用定員の変更について」に基づき説明。
◎会長	ただいまの説明について、質問、意見はないか。 (意見なし)
◎会長	ご意見、質問がなければ、議題「特定教育・保育施設の利用定員の変更について」の審議は以上とする。
報告. 各課の取組について	
資料2: 周南市当初予算の概要(抜粋)	
資料3: 生涯学習課資料	
資料4: 保育所再編整備資料	
◎会長	次に報告事項として、各課が取り組む事業について、事務局から説明をお願いします。

□事務局	<p>次世代政策課</p> <p>資料2に基づき、多子世帯子育て応援事業、母子父子自立支援事業、乳幼児医療費助成事業、子ども医療費助成事業、子どもの明るい未来サポート事業について説明。</p>
◎会長	それでは、意見、質問があればお願いします。
○委員	母子父子自立支援事業で相談の充実と説明があったが、相談件数は増加傾向にあるのか。
□事務局	5年間で倍増以上の状況にある。
○委員	離婚に関する弁護士相談について、対応する弁護士は決まっているのか。
□事務局	弁護士会の協力のもと、数名の弁護士に担当いただいている。
○委員	弁護士相談の費用はどうなるのか。
□事務局	弁護士費用を市が負担している。
◎会長	ご意見・ご質問がないようなので、次にこども支援課からの説明をお願いします。
□事務局	<p>こども支援課</p> <p>資料2に基づき、保育対策総合支援事業、幼児教育推進事業について、資料4に基づき保育所整備事業について説明。</p>
◎会長	それでは、意見、質問があればお願いします。
○委員	保育対策総合支援事業において、看護師等専門職の配置とあったが、看護師を増やすということは、障害のあるお子さんの受入を増やす計画なのか。
□事務局	配置の対象は、看護師、保健師、准看護師であり、保育所での看護体制の強化が目的である。結果として、障害のお子さんの受入につながることもあると考えるが、受入自体を目的とするものではない。
○委員	市で障害のあるお子さんの受入を増やすような計画はないのか。
□事務局	保育所の受入に際し課題をお持ちのご家庭はある。医療的ケア児の受入については国が法制化しており、こども支援課が今後取り組む課題として捉えている。

○委員	よろしく願いしたい。
○委員	私の保育園に今年度から看護師が配置されており、障害のあるお子さんを受け入れている。保育士も医療的な勉強はしているが、看護師がいることは安心につながっている。受け入れているお子さんも初めは動けなかったが、はいはいできるようになる様子を見ると、保育の意欲が湧いてくる。預かる前は不安もあったが1年かけてここまで成長できたことはすごいと感じている。看護師が配置され、けいれんがあった時なども素早い対応がとれるので保育士も安心している。できれば、限りはあると思うが、障害のあるお子さんも受け入れることができると考えている。
○委員	2点お聞きしたい。1点目は幼児教育推進事業について、幼児教育センターを設置し、合同研修会の開催や幼保小の接続強化とあったが、研修会について具体的な内容が決まっていればお聞きしたい。 2点目は地域子育て支援拠点事業について、地域で子育てをされている家庭が抱える育児や生活に関する様々な不安に対して、支援センターがどのように支援を展開していくのか。
□事務局	1点目の幼児教育推進事業について。令和4年度の研修内容は確定したものはない。令和3年度は、幼稚園教育要領や保育所保育指針に基づく園運営や幼保小の連携について、研修を行っている。令和4年度からは（仮称）幼児教育センターを設置することとしており、先ほどのご意見にもあったが、特別な配慮が必要なお子さんの受入にも取り組んでいくので、適宜必要な研修を行っていききたい。
□事務局	2点目の地域子育て支援拠点事業については、令和3年度からあんしん子育て室が所管している。この事業は子ども・子育て相談センターで行っている。専門の研修を受けた利用者支援員が各支援センターを巡回し、各家庭の相談を受けた各支援センターの指導員から情報を聴き取り、センターの専門相談員や地域の保健師につないでいる。令和4年度は更に拡充し、各地域の保健師が直接支援センターを訪問し、直接指導員から情報を聞き取るような取組を予定している。複合的な不安を抱える方が多くいることは把握しているので、しっかり対応していきたい。
○委員	幼保小の接続については、幼稚園や保育園が捉える課題と小学校

	<p>が捉える課題がそれぞれにあると思う。そうしたところをすり合わせると接続が円滑に進むと思うので、そのあたりを意識して研修に組み込まれればと思う。</p> <p>地域子育て支援事業での子育て支援に係る育児相談について、利用者支援について、県で毎年10数名要請されているかと思う。複合的な課題を各関係機関へつなぐということで専門職を効果的に活用されているとのことだったので、引き続き各家庭の支援に尽力いただきたい。</p>
◎会長	<p>その他、ご意見やご質問はないか。</p> <p>ご意見・ご質問がないようであれば、次にあんしん子育て室からの説明をお願いします。</p>
□事務局	<p><u>あんしん子育て室</u></p> <p>資料2に基づき、地域子育て支援拠点事業、子ども家庭総合支援拠点事業、子育て世代包括支援センター事業、母子保健指導事業、母子健康診査事業について説明。</p>
◎会長	<p>それでは、意見、質問があればお願いします。</p>
○委員	<p>先日、あんしん子育て室主催のオンライン研修に参加した。いままで療育の研修はあったが、その研修はそれぞれ現場の方が説明してくれ、非常に良かった。いろいろな資料で情報は見聞きするが、現場の声にはなるほどと思うことが多く、次回開催も是非お願いしたい。また、その研修で、市内に受診のみでなく、相談等も行っている小児科があることを知った。親御さんにとって、最初から専門の病院等へ行くことはハードルも高いし、時間もかかる。しかし、そうした受診を介して相談もできるのであれば行きやすいと思う。そうした情報があれば保育所や幼稚園に教えてほしい。</p>
○委員	<p>コロナ禍で、学校の臨時休校や、幼稚園の臨時休園などで親子が接する時間が増えるなかで、虐待の問題が気になっている。話を聞く機会があったときに、健康増進課の保健師によく電話がかかってくるという話を聞いた。電話をする人は良いが、電話をしない人に不安を感じている。電話相談の広報を市で実施してもらいたい。県では189番を実施しているが、そういう情報を市でも子育てしている方に積極的に広報をお願いしたい。</p>
□事務局	<p>広報周知活動についての重要性については認識している。令和4</p>

	年度の予算では周知活動にかかる予算を拡充しており、より効果的な周知方法を検討していきたい。
◎会長	次に学校教育課からの説明をお願いします。
□事務局	<p>学校教育課</p> <p>資料2に基づき、学校図書館活用推進事業、部活動指導員配置事業、やまぐち部活動改革推進事業、GIGA スクール構想推進事業、教員業務支援員配置事業、学校・家庭支援専門家配置事業について説明。</p>
◎会長	それでは、意見、質問があればお願いします。
○委員	小・中学校改修事業について、主な内容として、各学校の改修内容が具体的にあるが、これは各学校からの要望に基いて実施するのか。
□事務局	ご質問の事業については教育政策課が所管している。本日出席がないので私が把握している範囲での回答になるが、教育政策課が施設の老朽化を勘案し、予算を年度毎に振分け、計画的に進めている。
○委員	学校・家庭支援専門家配置事業について、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの配置は非常に良いことだと思うが、不登校といった子どもについてはスクールカウンセラーの対応にならないと思う。学校に来ない子どもについてはアウトリーチが必要だと考えるが、いかがか。
□事務局	スクールカウンセラーはカウンセリングの手法により、子どもや保護者の方々の不安を少しずつ取り除き、問題解決に導くものであり、学校の中の相談室を活用し、来ていただく方に対してのケアを行う。一方で、スクールソーシャルワーカーは、アウトリーチを基本としている。各家庭に出向き、家庭での支援を行っているが、不登校の問題がなかなか解決に至らず、年々そうした児童・生徒数が増加している状況にある。そうした要因は、児童・生徒個人の問題から家庭環境等様々に広がっている。子どもだけでなく保護者の方々など様々なところへ働きかけて支援に導かなければ、なかなか解決に至らないという実態があることから、家庭支援が主な業務となっている。現在県の補助を受けながら6名のスクールソーシャルワーカーを活用しながら取り組んできたが、6名の体制では十分な対応ができていないので、更にワーカーが必

	要であるということから本市が単独で配置し、支援を必要とする家庭に支援の手を差し伸べていくことが目的である。
○委員	よろしく願いしたい。
○委員	<p>常日頃から学校の先生方のご尽力には感謝している。部活動の地域への段階的な移行も進めてもらい、地域に子どもが出ていって、地域の人とつながって、地域をもっと好きになってもらえればと思っている。</p> <p>1点、GIGA スクール構想推進事業について。学校でもICTが進んでいると思うが、現場の話を聞くと、教え方もそうだが、機器のメンテナンスや緊急時の対応などが現場の先生方だけでは難しいと聞いている。ICTの専門の方の配置など今後予定されているものがあればお聞きしたい。</p>
□事務局	今年度から本格的な活用がはじまり、ICT教育アドバイザーという学校教育及びICTの両方に精通した専門人材を学校教育課に配置し、各学校を毎日巡回している。月に100件以上の対応をしているが、委員ご指摘のとおり各学校でいろいろなニーズを抱えており、1名では対応できない状況である。このことから、令和4年度は拡充し、増員のための予算を確保している。今後はICTの活用が進む中で、当初想定されていなかったニーズも発生すると思う。令和6年度には周南公立大学に情報科学部が設置される予定であり、また、徳山工業高等専門学校にも情報電子工学科があるので、そうした高等教育機関との連携も視野に入れ、進めて行きたいという構想もある。
○委員	タブレット端末について、破損等の修理費用は親の負担になるのか。
□事務局	本市では、故意または重大な過失による損傷又は亡失を除き、全て教育委員会で対応している。令和3年度で30数件ほど画面が割れる等の損傷が発生したが、そのほとんどを教育委員会で対応している。
○委員	高価なものだが、子ども達は一生懸命勉強しているので、引き続き支援をお願いしたい。
◎会長	<p>それでは、学校教育課については以上で終了する。</p> <p>最後に生涯学習課からの説明をお願いします。</p>

□事務局	<p>生涯学習課</p> <p>資料3に基づき、放課後子供教室、児童クラブ事業について説明。</p>
◎会長	<p>それでは、意見、質問があればお願いします。</p>
○委員	<p>放課後子供教室で子どもがお世話になっているが、サポーターの方が高齢化し、人手が不足していると聞く。サポーターや学校も募集しようとするが、コロナ禍で直接声かけしにくい状況である。市で募集してもらえれば興味を持つ方もいると思うのでお願いできないか。</p>
□事務局	<p>ご指摘のとおり放課後子供教室のサポーターは、有償ボランティアが担っている。サポーターが高齢化・固定化する状況において、なかなか思うほど人数が伸びていない。特に昨年度と今年度は、コロナ禍の影響で教室の開催自体も少なくなり活動実績も減っている。これまでも広報等の媒体で募集は行っている。実際は、現在活動されている方の口コミによるところが一番大きいですが、それに頼ってばかりもいられないので、劇的な解決策はないかもしれないがどういったことができるか考えながらチャレンジしていきたい。</p>
◎会長	<p>最後に、全体を通して、意見、質問があればお願いします。</p>
○委員	<p>各課からの報告を伺い、例えばスクールソーシャルワーカーの事業であったり、今年度は所属する大学の学生が子育て支援センターに足を運ばせてもらい活動の機会をつくってもらったりしたが、身近に関わりを持たせてもらう中で、市としての子育て支援における質の向上という点で気概を感じている。先ほど話の出た周南公立大学の状況では、令和4年度に保育士を目指す学生が10名程度おり、また、子育て支援に関する教員・スタッフも増員する予定である。市だけではなく、この審議会のような関係機関がバックアップすることが一つの趣旨だと考えているので、様々な情報提供を通じ、市の子育て施策に尽力していきたい。</p>
○委員	<p>通学路安全対策事業について、登校班をサポーターの方が見守り活動を行っていただいているが、先ほど同様高齢化が進んでいる。また、保護者も子供会で立哨当番があるが、共働きの方が増えていて、普段の登下校を見守ることが難しくなっている。安全旗の設置も検討しているが、いろいろ課題があるようなので、道路整備や安全対策時にあわせて検討いただきたい。</p>

□事務局	道路課所管の事業になるが出席していないので、今のご意見は学校教育課で承る。また、通学路安全対策協議会が年1回開催され、学校教育課も参加し、協議の場を持っているので、今のご意見はその場でもお伝えしたい。
○委員	以前は立哨すると補助金が出たように記憶するが現状は。
□事務局	学校教育課の所管事業では、そうした事業はない。こういったところから補助金が出ていたかは分かりかねる。
○委員	立哨の補助金が学校に入り、学校の図書費に使ったりしていたと記憶している。立哨する保護者に対しこんなふうにお子さんの役に立っていると説明し立哨してもらっていた。30数年前の話にはなるが。
○委員	現状は子供会に一任されており、そうした補助金はない。共働き世帯が多いので皆さん苦勞されている。子ども自体も減っているので子供会もどんどんなくなる状況で、当番を回すのも大変である。子どもが減ったことで登校班の編成も難しい場合があり、見守りの問題に加え登校が難しい状況にある。なので一般公募のボランティアなどで対応いただければ助かる。
□事務局	今年で10年を迎えるが、周南市では全ての学校をコミュニティスクールに指定し、学校運営協議会を設置し、地域の方も学校運営に参画いただいている。そうした中、地域の中で子ども達の安全を確保できないかということで見守り隊を結成し、地域の住民の方も見守り活動に参加していただき、定所に立っていただくことや、また、ながら見守りといって、子ども達の通学時間に何かをしながらではあるが、子ども達を見守ってもらうなど、地域にご協力いただいている状況である。コロナ禍の問題もあり、先ほどからの高齢化や固定化など課題は山積しているが、保護者だけの問題ではないので、コミュニティスクールの機能を活かして地域を挙げた課題解決を図って参りたい。
○委員	子どもを取り巻く環境の中で、これだけの事業を通しながら、皆さんが真剣に考えているという内容を拝見し、安心するとともに頑張らないといけないと気持ちを新たにした。一番思うのは子ども達自身が何を感じて、どのように育っていくのかについて、保護者の視点でなく子ども目線で考えることを忘れずに取り組んでいきたいと思う。各事業の説明があったが、事業として取り上げ

	<p>ることのできないレベルで、子どもに関わる様々な出来事があると思う。家の中では見えざる家事と言われるものがあるが、子どもを取り巻く状況の中にも、見えざるいろいろなものがあると思う。そうしたものが表面化して皆さんと話し合っていけるような機会が出てくれば自分たちが現場で取り組める、みんなが協働しながら直接子どもに目を向けていくようなことにつなげていくことができるのではないかと感じている。今回は初めての参加であったが、今後も引き続きお願いする。</p>
○委員	<p>須々万保育園と須々万幼稚園の認定こども園の件について、個人的にボランティアで子育て支援を行っており、先日保護者の方と話す機会があった。その中で、保育所に入園したいが入園が難しくなってきたと聞いた。先ほど令和4年度から中須保育園が休園になると聞いたが、その分須々万保育園の入園者数が増えることはないのか。</p>
□事務局	<p>保育所はご存じのとおり保育が必要なお子さんの受入を行っている。全体的に子どもの数は減少している状況だが、一方で働く保護者は増加傾向にある。そうした状況にあって、特に中山間地域の傾向としては保育の利用は減少傾向にある。</p>
○委員	<p>資料での推移では極端に人数が減っているとは思わない。出産すればすぐにでも働きたいという方の話を聞く。現状、幼稚園よりは保育園のニーズが高いと感じている。そのあたりを勘案してほしい。</p>
□事務局	<p>ご意見を受け、しっかりやっていきたい。</p>
◎会長	<p>本日の議題は以上とする。 事務局へお返しする。</p>
□事務局	<p>たくさんの貴重な意見、また支援の言葉をいただき感謝申し上げます。ワンオペ育児などひとりで子育ての不安を抱える方も多くなっている。ご意見にあったように SOS を自身で発信できる方は良いが、届かない声をしっかり拾っていきながら安心して子育てのできるまちづくりを進めないといけないと感じている。行政はもちろんだが、引き続き地域の皆さまのご支援をいただければありがたいと思っている。子どもを取り巻く環境の整備も重要だが、支援する人材の育成も重要だと認識している。引き続き皆さまからご意見をいただきながら子育て支援策を進めてまいりたい。</p>